

# 緒 言

地質情報研究部門長 牧野雅彦

日本の沿岸域には人口が集中する平野が点在し、多くの人々が生活の基盤を沿岸域に置いています。沿岸域は、豊かな自然の恵みと人々の居住空間をもたらす土地であるがゆえに、そこで起こる地震や津波、液状化などの地質現象とそれによって引き起こされる災害は、国民の多くにとって脅威となっています。産業技術総合研究所では、平成19年に発生した能登半島地震と中越沖地震が、沿岸域の地質情報の空白域で発生したことを踏まえて、沿岸域を中心とした活断層や地盤の地質に関する、正確で精密な地質情報の整備を目的として、平成20年から平成25年度にかけて産業技術総合研究所の政策課題「沿岸域の地質・活断層調査」として調査・研究を実施してまいりました。特に、本課題では、沿岸の海域と陸域を構造地質学・層序学・堆積学・地球物理学・地球化学・水文地質学など様々な手法で調査研究を行い、陸域から海域まで連続するシームレスな地質・活断層情報として整備することを研究目標としています。

本報告は、平成25年度に実施した駿河湾沿岸域の陸域及び海域の調査・研究活動や津波堆積物研究活動を記録し、紹介するものです。本報告には、12件の研究成果の報告が収められています。駿河湾沿岸域の海域調査研究では、駿河湾における反射法音波探査、静岡市及び富士市沖合の地形調査、海底堆積物調査と堆積プロセス研究、海底重力調査があります。陸域調査研究では、富士川河口域における反射法地震探査、三保半島における浅海地下構造調査、平野地下の第四系地質調査、空中磁気探査や沿岸域の水理地質環境調査研究があります。また、海溝型地震履歴解明の研究、北茨城市や仙台湾および仙台平野の津波堆積物に関する放射性炭素年代についての報告です。本報告は、調査終了直後に作成されたため、調査で得られたデータが十分に解析され、その解釈が固まったものではないですが、本研究の概要と現状を示し、沿岸域の地質学の進展と社会への研究成果の迅速な還元をすすめるものです。

ご高覧いただき、活動内容や成果についてご理解いただくとともに、忌憚りの無いご意見を賜りますようお願いいたします。